

2012 年度秋学期 日本理解に関する科目・授業概要

	授業科目名 Subject	担当教員 Lecturer	曜・時限・教室 Period, Classroom	目標 Aim	内容とテキスト Course outline, Textbook
日 本 の 文 化 と 社 会 *	日本の文化と社会 B	神埜正子 (かみや まさこ) 石川尚子 (いしかわ なおこ)	月・1 N202	本科目は、諸外国の影響を受けながら、長い年月をかけて日本人が生み出し、育んできた、衣生活・食生活について、階層、時代、地域などを切り口に、文化の視点から捉えようとするものである。衣生活や食生活に生かされたこうした知恵や文化がいかに継承されているかなどを学んで、現在の日本の文化と社会を再認識するきっかけとし、生活文化の視点から日本への理解を深めてほしい。	【内容】衣生活については、古代から現代に至る変化をとらえ、それぞれの時代の文化の成立と現在まで受け継がれている伝統行事の関連で展開する。食生活については、日本の食文化を社会の変化と共にとらえ、さらに今日の食生活の問題点に触れつつ、食生活・食文化の発展とは何かについて考える。【テキスト】特になし。 【評価方法】平常点評価(授業への参加状況)50%。レポートおよびペーパーテスト50%(各講師の持ち点25%ずつ)。①1~7週(神埜)については毎回のまとめのミニレポートおよび最終日(7回目)のペーパーテスト。②8~15週(石川)については毎回のミニレポートおよび最終日(15回目)のペーパーテスト。このテストには、配付資料の持ち込みを可とする。
	日本の文化と社会 D	古田悦三 (ふるた えつぞう)	木・1 N407	日本における地域差に関して、地名・言語・食文化等を事例に4~5回講述する。また、野外実習の現地観察【12月21日(金)~23日(日)】によって、その相異を体感する。	【内容】日本を理解する上で重要である各地域の位置関係や社会・文化の地域差に関して習得する。また、現地観察によりその知識の確認と再認識を図る。 【テキスト】なし。 【評価方法】出席点20点、野外巡検参加30点、野外巡検レポート50点。
	日本の文化と社会 F	日高 慎 (ひだか まこと)	木・1 N107	本講義では考古学をもとにして旧石器時代から近代・現代までの日本歴史・文化について通観する。考古学は発掘調査によって出土した遺構・遺物をもとに歴史を復元する学問である。歴史は書かれたもの、すなわち文献史料を用いて説明を行うことが多いものの、考古学の成果を無視しては日本歴史は語れない。本講義を通じて考古学の特徴を理解してほしい。	【内容】考古学は発掘調査の成果から歴史を復元する学問である。歴史は書かれたもの(文献史料)で説明されることが多いが、かかれたものはきわめて限定的であるとともに、支配者側の論理によって書き留められることが多い。つまり文献史料だけで歴史を語ることは、一方的な歴史解釈になってしまいがちである。それに対して考古資料は人々の生活そのものが残されることが多い。考古学の成果を通じて日本歴史・文化を考えたい。 【テキスト】なし 【参考文献】図解・日本の人類遺跡(東京大学出版会)、図解・日本の中世遺跡(東京大学出版会) 【成績評価】平常点40%、最終テスト60%。平常点は出席及び小レポートによって採点する。最終テストは授業で取り上げたテーマに関して出題し、解答をまとめる。

	日本の文化と社会 H	太田 朋宏 (おたともひろ)	木・1 N106	伝統的な物づくりを通じて日本の文化と社会を考える。	【内容】主に工芸などの物作りに関する映像資料を通じて日本の伝統や文化について考えます。当方の専門である木工と漆芸に関わるものを主に陶磁器、染織、民芸運動などについて12～13回にわたって見ていきます。明治以降現代までの話題が多いと思いますが歴史上の話題もいくつか入れようと思います。最後に関連施設として伝統的工芸品センターの見学を予定しています。【テキスト】なし【評価方法】毎週ごとに簡単なレポートを課します。また最後にまとめとして伝統的工芸品センターの見学とそのレポートを予定しています。それらと出席を合わせて採点します。
--	---------------	-------------------	-------------	---------------------------	--

*「日本の文化と社会A・C・E・G」は、春学期に開講します。「日本の文化と社会」の授業内容は、「大学ホームページ>学内ネットワーク>シラバス検索」からも見られます。

日 本 研 究 科 目 **	日本研究演習 A (社会)	加藤 拓 (かとうたく)	金・2 C103	日本で習慣化した消費行動、日本で最近ヒットした商品や流行現象などをとりあげ、その社会的背景や企業行動を理解する。	【内容】講義のはじめに日本で定番化した商品や、いま流行している商品、消費現象に関する話題を紹介し、その理由を社会的背景や関連する企業の行動を中心に説明します。日本人にもものを買ってもらう方法を少し理解できるかもしれません。受講生の皆さんには、自国の似ている例を紹介していただき、日本の場合との共通点や相違点を発表していただく予定です。楽しいクラスにしましょう。 【テキスト】とくに定めません。【評価方法】平常点50%、発表・レポート50%
	日本研究 B (人文)	有澤知乃 (ありさわしの)	水・2 C103	日本の祭りについて、宗教、社会、文化、芸能など様々な観点から考察します。	【内容】日本全国の祭りについて、映像資料を見ながら学びます。京都の祇園祭では、どうして華やかな山鉾を曳いて人々が街を練り歩くのでしょうか？盆踊りの歌や踊りに込められている意味は？札幌雪まつりが国際的な祭りに発展した背景は？各地の人々の風俗や信仰が、祭りの中にどのような形で表れているかを考え、更に現代社会における祭りの変遷や新しい取り組みについても議論します。課題として、各自で祭りに行ってフィールドワークを行い、観察したこと、考えたことについて発表をしてもらいます。 【テキスト】とくに定めません。【評価方法】平常点15%、発表35%、レポート50%

<p>日本研究演習C Field Study (School Visit) Presentations Discussions Activities on the topics of schools, teachers, students, education, children, and youth.</p>	<p>戸田 孝子 (とだ たかこ)</p>	<p>火・5 W302 フィールド ワーク を含み 15 授業時 間とする</p>	<p>【ねらい】 この授業は、比較文化の視点から、主に「学校、教育、教師、子供、若者」をテーマに、日本人学生との討論、日本の小学生とのコミュニケーションを通し、理解を深めることをねらいとしている。 【備考】 火曜日 5 時限への参加は、10 授業時間、毎回参加しなくてよい。学校訪問日 [2013 年 1 月 25 日 (金)] 予定は、国分寺駅前 8 時 30 分集合 (小学校まで約 2 時間)、交通費 (往復、約 1500 円、給食費 約 300 円は、各自用意する。メールで受講登録し、訪問時の緊急連絡などを受けられるようにしておく。</p>	<p>【内容】 ① 10 月 19 日、授業の概要についてオリエンテーションを受け、メールで受講登録をする。②日本人学生に伝える母国の事情について、「学校、教育、教師、子供、若者」の中から一つテーマを選び、パワーポイントを用いた短いプレゼンテーションを準備する。③少人数の日本人学生のクラスで、[10 月～12 月、いずれか 1 回] 発表し、互いに興味のある具体的問題について質問し合う。④ある日本の小学校へ郵送する自己紹介の絵手紙を準備する。(11 月 27 日締切。12 月に訪問小学校に掲示される) ⑤発表をした日本人学生のクラスで、お楽しみ会を企画し、交流を深める。(12 月末) ⑥ (1 月中旬) 手紙を送った小学校の子供からの返信を受け取る。その子供のクラスを、1 月 25 日 (金 : 1～4 時限は他の授業を休む) 訪問して、授業を受けたり、交流活動をしたり、給食を食べたり、遊んだりして、子供達と一緒に過ごす。⑦ (2 月) 日本人の学生のクラスで、日本の小学生との交流体験から得たさまざまな発見についてレポートする。日本人学生の諸外国でのさまざまなフィールド・スタディーでの発見の発表を聞くこともできる。 【成績評価】 ①パワーポイントを用いた、母国の事情についてのプレゼンテーション。②クラスメイトの発表の傾聴、話し合い参加。③子供達への絵手紙の作成と提出。④小学校訪問参加 ⑤学校訪問レポート (スピーチでも可) 以上により成績をつける。</p>
<p>日本研究 D (芸術)</p>	<p>石井 健 (いしい たけし)</p>	<p>金・4 ***書道演 習室</p>	<p>この授業科目では、日本の文字文化を中心に考察していきます。本年度は、漢字・ひらがな・カタカナの書き方、特に「正しく整った文字」とは何か? ということについて、実際の筆記具を使い、書きながら学んでいきます。</p>	<p>【内容】 日本語を学ぶテキストには様々な種類のものがありますが、文字の書き方、特に「正しく整った文字」の書き方を勉強できるテキストは少ないようです。そこで、本年度は、日本の小学生が文字を学ぶ「書写」の教科書を使って、「正しく整った文字」の考え方・書き方・教え方について、日本の文字文化、芸術として書道とのかかわりも考えながら勉強していきます。テキスト、鉛筆などの筆記用具、毛筆の道具等は各自で用意してもらいます。 【テキスト】 『新しい書写一～六』 (東京書籍)。その他、必要に応じ、資料を配布します。 【評価方法】 平常点 50% 提出物 30% レポート 20%</p>

** 「日本研究 A・C」 「日本研究演習 B・D」 は、春学期に開講します。

***書道演習室は 芸術・スポーツ科学系研究棟 4 号館 2 階 にあります。